

科目名	社会思想史特殊研究	担当者	イシハマ 石浜 ヒロミチ 弘道	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	千変万化する現代社会において、ともすれば自己のアイデンティティーを失いがちな私たちの日々の営みの中で、そうした激変する社会の構造を分析し、そのあるべき社会の姿を探求することは喫緊の課題であろう。それは哲学が伝統的になしてきたことである。哲学はその時代時代の問題状況と取り組みつつ、人類の普遍的な在るべき姿を示してきたのであった。そこで学習者にとって今日何が現代社会の倫理上の根本問題なのか、どうしたらそれを自らの力で解決できるのか、日本人として歩むべき方向をどのように指導すべきなのか。これらを社会倫理史の知的営みの中から考えることができるようにする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>学習者が今日の社会の諸問題をテキストの指摘を参考にしつつ正確に理解することで、多様な国家や民族そして文化の存在価値を踏まえて共生というあるべき社会の姿を論理的に習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>学習者は社会のあるべき姿を理解する過程で、まず既存の社会が抱える諸問題を客観的に述べる(知識・解釈)。そのために世界の多くの文化、民族の多様な価値をできる限りその内面からみつめることで現実起こっている諸問題の説明し、さらに解決を指摘する(知識・問題解決)。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学習媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・図書館等を利用し、参考文献等を分析・解説しレポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者は今日の社会の諸問題に意識的に取り組み、テキストにあるように哲学者が取り上げる問題について、それらが具体的にどのようなものかを自ら調べ、さらにその問題を掘り下げ解決を目指して行動に移すことができる。たとえば、マス・メディア等でそれらの問題を把握することにもテキスト理解と同様の時間を使う(自習)【15時間/レポート1本】。 ・さらに自分の近辺でも同様の問題があるかどうか調べる。可能であれば自らもその問題の解決に参加(自主研究)【10時間/レポート1本】。 ・1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに5時間以上(レポート作成)【10時間/レポート1本】。 <p>manaba folio への提出・再提出のやりとりその他に10時間以上が目安(ディベート)【10時間/レポート1本】。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)は7月末、課題(2)は8月末を目安に提出する。いずれの課題も学事暦で定められた日までに提出しなければならないが、初稿等はそれより早めに提出すること。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目安に提出する。いずれの課題も学事暦で定められた日までに提出しなければならないが、初稿等はそれより早めに提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストを正しく理解し、課題ごおりのレポートとしての的確に書かれていること
	観察記録	20%	再提出レポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること
履修者への要望	レポートの課題に関連したテキストの部分のみでなく全体を通してじっくりと読み理解すること、さらにそこで述べられている諸問題を身近な問題として具体的にに取り組むことが望ましい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 山脇直司 教材名： 『ヨーロッパ社会思想史』（東京大学出版会、1992年）ISBN:978-4-13-012051-7-C3010 2200円＋税 本書は社会思想の種々の潮流を通して、私たちの社会がこれまで何を問題とし、どのように考え、その解決に向かったかを概説的に述べている。そこでこれらを学ぶことで社会が必要としている哲学の働きを理解することができ、さらにそこから混迷する現代社会の解決に不可欠な哲学の意義を再発見することができる。
参考図書	熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2冊、2006年）ISBN:4-00-431007-5 各860円＋税 加茂直樹『社会哲学を学ぶ人のために』（世界思想社、2001年）ISBN:4-7907-0876-4、2000円＋税
履修上のポイント	テキストを通読することにより、全体の流れの中で自分が選んだ課題の章とそこでの立ち位置が明確となる。さらにそこで取り上げられている諸問題について、新聞等身近なもろもろの資料から調べ、可能であればフィールドワークをすることが望ましい。
レポート課題 1	テキスト全体から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。 留意点: 選んだ章から自分が力点を置きたいというところを中心に要約すること。
レポート課題 2	テキスト全体から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい(ただし課題1の章と重複しないこと)。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。 留意点: 選んだ章から自分が力点を置きたいというところを中心に要約すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： I. カント 教材名： 『永遠平和のために / 啓蒙とは何か』（光文社古典新訳文庫、2006年）ISBN:978-4-334-75108-1C0198 648円＋税 『永遠平和のために』においてカントは永遠平和の実現に関し、6つの予備条項と確定条項として国家法、国際法、世界市民法において尊重されるべき原則を挙げ、今日にも通用する個人の人権や自由の尊厳、共和制、国際連合等の平和のための不可欠の条項を謳っている。 『啓蒙とは何か』「啓蒙とは何か。それは人間が、みずから招いた未成年の状態から抜け出すことだ」とカントが述べている。つまり私たちが自ら所有する理性を使う勇気をもつことが人格としての人間の在り方であり、それは今日の脆弱な側面を有する大人社会において自律的人間とはいかにあるべきかを示すものとなっている。
参考図書	小牧治『カント』（清水書院、2000年）ISBN:978-4389410155 1080円 熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2冊、2006年）ISBN:4-00-431007-5 各860円＋税
履修上のポイント	カントのテキストは難解なものが多いが、ここに取り上げたカントの二つの論文は、一般人を対象としたもので比較的読みやすい。しかしやはり哲学書なので熟読し理解することが必要である。そのためにも上記の参考図書は役立つ。
レポート課題 1	『永遠平和のために』でカントが述べている「あるべき平和」とはどのようなものなのかを主に第1章を中心に述べなさい。またその内容が今日の日本の政治状況と比較して、日本はどうあるべきかについて述べなさい。 留意点: 世界の平和に日本はどのように貢献できるかという観点から考えること。
レポート課題 2	『啓蒙とは何か』でカントが述べている「啓蒙」つまり理性の自律とはどのようなことを述べなさい。 留意点: 今日の情報過多な時代においてカントが言う「人間は自ら考えるべきである」ということが意味する批判的思考力を重視。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（社会思想の歴史を学修）
第 4 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（社会の諸問題に関する考察）
第 5 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（諸問題に対する哲学による把握）
第 6 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（諸問題に対する哲学による解決）
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	社会思想の歴史的推移とその諸問題に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；カントの社会思想に関する全般的学修
第 4 回	基本教材 2 の学修；カントの教材の正確な理解
第 5 回	基本教材 2 の学修；カントの教材におけるあるべき平和のあり方
第 6 回	基本教材 2 の学修；カントの教材における啓蒙の意味
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連するカント思想の哲学史的観点からの考察
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証